

皆で、やさしくなれる



今年になり、NHK大河ドラマ『西郷どん』の放映で、鹿児島県に関する番組を多く

見ます。実は、鹿児島県と岐阜県とは歴史上とても深い関係があります。

江戸時代中頃、濃尾平野西南部を流れる木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)の合流地帯は幾度もの大洪水に悩まされていました。徳川幕府は外様大名である薩摩藩に対してその治水工事を命じました。河川工事に慣れない薩摩藩士たちは、経験したことのない大河の水の流れと苦戦しながら丸2年の歳月をかけその大工事を成し遂げました。しかし膨大な費用の出費と多くの薩摩藩士が命を落としました。その総監督であった薩摩藩家老の平田鞍負(ひらたゆきえ)は、すべての責任を取って完成を見届けること切腹しました。その後水害は減少し、地元の人々の平田鞍負をはじめ薩摩藩士たちを「神」と称える程の熱い「報恩感謝」の思いから「治水神社」が創建されました。

外様大名として多くの困難や悲しみを乗り越えた結果生まれた「出水(いずみ)という道徳的な「教え」が薩摩藩に生まれ、子供たちに年上の者が年下の者へ教える郷中(ごちゅう)教育方法でなされました。それが現代にも生きているとTV「秘密の県民ショー」で以前見たことがあります。ウチの檀家さんにも鹿児島県出身の奥さんが数名いらっしゃいますが、今では

珍しく3世代同居で生活され、「家」に温かさを感じます。困難や苦しみを体験すると人はやさしくなることができるのかも知れません。

今年の1月下旬から2月上旬の寒さは近年ないものでした。ウチの檀家さんでお店の商品を北陸や新潟方面へトラックでよく配達に行かれる方がおられます。福井方面の豪雪で国道に立ち往生した多数のトラック等がニュースで映りました。その檀家さんも巻き込まれていないか心配して見ていましたが、今回は難を逃れたようで一安心。しかし、昭和56年に福井県に大雪が降り、今回と同じ場所で雪に閉じ込められたそうです。当時はまだコンビニもなくお腹がすいたそうです。すると近所の人らしき方がオニギリ3個と沢庵2切れを包んで持って来てくれたそうです。あまりの空腹にすぐさま受け取ると、「はい、1,800円です」と請求されたそうです。この時の愕然とした思いは一生忘れないそうです。更に今度はタバコを売りに来ました。それも箱売りではなく1本売り数百円！さすがに後で世間から非難されたそうですが… 日本人もその程度だったのです。

それから40年弱。我々は、「阪神淡路大震災」、「東日本大震災」等の悲しい出来事を経験し「やさしく」なることが出来たのかも知れません。今回の福井大雪では、国道沿いの「餃子の王将」が、店の在庫の材料をすべて使い、80人分の食事を作り、ドライバーに温かい食事を提供したとのニュースを見ました。日本人も「やさしく」なることが出来たのだと思います。すばらしい事と誇るべきです。俊徳丸